

# 平成 15 年 3 月期 個別中間財務諸表の概要

平成 14 年 11 月 14 日

上場会社名 ハウス食品株式会社  
 コード番号 2810

上場取引所 東・大・名  
 本社所在都道府県 大阪府

(URL <http://www.housefoods.co.jp/>)

代表者 役職名 代表取締役 氏名 小瀬 昉  
 問合せ先責任者 役職名 総務部長 氏名 山口善弘 TEL (06)6788-1231  
 決算取締役会開催日 平成 14 年 11 月 14 日 中間配当制度の有無 無  
 中間配当支払開始日 平成 - 年 - 月 - 日 単元株制度採用の有無 有(1 単元 100 株)

## 1. 14 年 9 月中間期の業績(平成 14 年 4 月 1 日 ~ 平成 14 年 9 月 30 日)

(1) 経営成績 (単位: 百万円未満切捨て)

	売上高		営業利益		経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
14 年 9 月中間期	82,406	1.9	3,254	18.6	3,894	16.0
13 年 9 月中間期	84,030	8.1	3,997	39.2	4,639	39.4
14 年 3 月期	164,384		6,101		7,387	

	中間(当期)純利益		1 株当たり中間 (当期)純利益	潜在株式調整後 1 株当たり 中間(当期)純利益
	百万円	%	円 銭	円 銭
14 年 9 月中間期	2,335	29.9	20.79	20.37
13 年 9 月中間期	1,798	28.5	16.01	15.83
14 年 3 月期	3,086		27.47	27.35

(注) 期中平均株式数 14 年 9 月中間期 112,342,021 株 13 年 9 月中間期 112,377,817 株  
 14 年 3 月期 112,373,336 株

会計処理の方法の変更 無

売上高、営業利益、経常利益、中間(当期)純利益におけるパーセント表示は、対前年中間期増減率

## (2) 配当状況

	1 株当たり 中間配当金	1 株当たり 年間配当金
	円 銭	円 銭
14 年 9 月中間期	-	-
13 年 9 月中間期	-	-
14 年 3 月期	-	19.00

## (3) 財政状態

	総資産	株主資本	株主資本比率	1 株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
14 年 9 月中間期	227,244	167,065	73.5	1,487.28
13 年 9 月中間期	229,800	166,467	72.4	1,481.32
14 年 3 月期	228,410	166,939	73.1	1,485.73

(注) 期末発行済株式数 14 年 9 月中間期 112,329,617 株 13 年 9 月中間期 112,377,356 株  
 14 年 3 月期 112,361,423 株

期末自己株式数 14 年 9 月中間期 49,117 株 13 年 9 月中間期 1,378 株 14 年 3 月期 17,311 株

## 2. 15 年 3 月期の業績予想(平成 14 年 4 月 1 日 ~ 平成 15 年 3 月 31 日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1 株当たり年間配当金	
				期末	期 末
	百万円	百万円	百万円	円 銭	円 銭
通 期	166,000	8,200	5,300	19.00	19.00

(参考) 1 株当たり予想当期純利益(通期) 47 円 18 銭

営業利益 7,000 百万円

上記の予想には、本資料の発表日現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予想が含まれております。実際の業績は、今後様々な要因によって記載の予想数値と異なる可能性があります。

# 個 別 中 間 財 務 諸 表 等

## 1. 中間貸借対照表

(単位：百万円)

資 産 の 部			
科 目	当中間会計期間末 ( H14 . 9 . 30現在 )	前中間会計期間末 ( H13 . 9 . 30現在 )	前事業年度末 ( H14 . 3 . 31現在 )
流 動 資 産	《 110,334 》	《 102,172 》	《 97,074 》
現 金 ・ 預 金	45,888	46,415	41,555
受 取 手 形	604	1,001	850
売 掛 金	35,068	37,567	33,182
有 価 証 券	17,003	5,012	8,497
製 商 品	5,596	5,771	6,451
原 材 料	1,764	1,900	1,923
仕 掛 品	603	612	537
貯 蔵 品	426	466	436
繰 延 税 金 資 産	1,853	1,746	1,378
そ の 他 の 流 動 資 産	1,525	1,678	2,261
貸 倒 引 当 金	0	0	0
固 定 資 産	《 116,909 》	《 127,628 》	《 131,335 》
有 形 固 定 資 産	( 48,746 )	( 50,568 )	( 49,631 )
建 物	19,307	20,136	19,728
構 築 物	1,056	1,140	1,108
機 械 装 置	9,427	10,473	9,745
車 両 運 搬 具	175	361	198
工 具 器 具 備 品	1,033	1,272	1,154
土 地	16,435	16,435	16,435
建 設 仮 勘 定	1,311	748	1,259
無 形 固 定 資 産	( 196 )	( 216 )	( 190 )
電 話 加 入 権	45	45	45
ソ フ ト ウ ェ ア	137	140	130
そ の 他 の 無 形 固 定 資 産	13	29	14
投 資 そ の 他 の 資 産	( 67,966 )	( 76,843 )	( 81,513 )
投 資 有 価 証 券	53,556	66,203	67,156
関 係 会 社 株 式	8,474	5,438	8,474
出 資 金	332	118	345
長 期 貸 付 金	2,410	2,382	2,209
差 入 保 証 金	1,537	1,622	1,604
長 期 前 払 費 用	23	20	25
繰 延 税 金 資 産	2,445	1,780	2,498
そ の 他 の 投 資 等	95	136	96
貸 倒 引 当 金	908	860	897
資 産 合 計	227,244	229,800	228,410

(単位：百万円)

負債の部			
科目	当中間会計期間末 (H14.9.30現在)	前中間会計期間末 (H13.9.30現在)	前事業年度末 (H14.3.31現在)
流動負債	《 48,243 》	《 36,814 》	《 49,812 》
支払手形	2,464	2,698	2,971
買掛金	13,583	16,274	16,941
未払金	12,263	13,189	12,058
1年以内償還予定転換社債	14,894	-	14,894
未払法人税等	2,145	1,714	646
未払費用	2,315	2,397	1,886
預り金	83	90	91
その他の流動負債	492	451	322
固定負債	《 11,935 》	《 26,519 》	《 11,658 》
転換社債	-	14,894	-
退職給付引当金	10,582	10,298	10,246
預り保証金	645	312	345
役員退職慰労引当金	706	1,014	1,066
負債合計	60,178	63,333	61,471
資本の部			
資本金	《 - 》	《 9,948 》	《 9,948 》
資本準備金	《 - 》	《 23,815 》	《 23,815 》
利益準備金	《 - 》	《 2,487 》	《 2,487 》
その他剰余金	《 - 》	《 125,250 》	《 126,538 》
任意積立金	-	122,400	122,400
別途積立金	-	2,850	4,138
中間(当期)未処分利益	-	2,850	4,138
その他有価証券評価差額金	《 - 》	《 4,967 》	《 4,169 》
自己株式	《 - 》	《 1 》	《 19 》
資本合計	-	166,467	166,939
資本金	《 9,948 》	《 - 》	《 - 》
資本剰余金	《 23,815 》	《 - 》	《 - 》
資本準備金	23,815	-	-
利益剰余金	《 129,160 》	《 - 》	《 - 》
利益準備金	2,487	-	-
任意積立金	123,400	-	-
中間未処分利益	3,273	-	-
その他有価証券評価差額金	《 4,197 》	《 - 》	《 - 》
自己株式	《 56 》	《 - 》	《 - 》
資本合計	167,065	-	-
負債・資本合計	227,244	229,800	228,410

## 2 . 中間損益計算書

( 単位 : 百万円 )

科 目	当中間会計期間 ( H14.4.1 ~ H14.9.30 )	前中間会計期間 ( H13.4.1 ~ H13.9.30 )	前事業年度 ( H13.4.1 ~ H14.3.31 )
営業収益 売上高	82,406	84,030	164,384
営業費用 売上原価 販売費・一般管理費	40,202 38,949	40,789 39,243	80,625 77,658
営業利益	3,254	3,997	6,101
営業外収益 受取利息・配当金 その他	768 348	728 328	1,410 728
営業外費用 支払利息 貸貨物件費用 その他	140 154 181	139 181 93	278 374 199
経常利益	3,894	4,639	7,387
特別利益 固定資産売却益 貸倒引当金戻入益 投資有価証券売却益	- 1 431	78 - -	82 - 1
特別損失 固定資産除却損 投資有価証券評価損 ゴルフ会員権等評価損 製品自主回収費用 貸倒引当金繰入 従業員早期退職一時金	78 26 37 - - -	49 625 75 863 - -	236 575 171 863 2 165
税引前中間(当期)純利益	4,185	3,104	5,457
法人税・住民税及び事業税	2,292	1,841	2,677
法人税等調整額	442	536	306
中間(当期)純利益	2,335	1,798	3,086
前期繰越利益	937	1,051	1,051
中間(当期)未処分利益	3,273	2,850	4,138

### 3 . 中間財務諸表作成の基本となる重要な事項

#### ( 1 ) 有価証券の評価基準および評価方法

満期保有目的債券	償却原価法
子会社および関連会社株式	総平均法による原価法
その他有価証券	
時価のあるもの	中間決算日の市場価格等に基づく時価法 ( 評価差額は全部資本直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定 )
時価のないもの	総平均法による原価法

#### ( 2 ) たな卸資産の評価基準および評価方法

製商品、原材料、仕掛品	総平均法による原価法
貯蔵品	先入先出法による原価法

#### ( 3 ) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産 ... 建物（建物附属設備を除く）は定額法、建物以外については定率法  
但し、当社は、機械および装置の一部について経済的使用可能年数を勘案して、法定耐用年数を短縮しております。なお、主な耐用年数は、以下のとおりであります。

建 物	3 ~ 5 0 年
機械装置	7 ~ 1 5 年

無形固定資産 ... 定額法

但し、ソフトウェアについては、見込利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

#### ( 4 ) 引当金の計上基準

貸倒引当金 ..... 債権の貸倒の損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

退職給付引当金 ..... 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。  
数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により翌年度から費用処理しております。

役員退職慰労引当金 ... 役員の退職慰労金の支払いに備えるため、役員退職慰労金内規に基づく中間会計期間末要支給額を計上しております。

#### ( 5 ) 外貨建の資産および負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、中間決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

#### ( 6 ) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

#### ( 7 ) 消費税等の会計処理

消費税等については、税抜処理を行っております。

【追加情報】

(自己株式及び法定準備金取崩等会計)

当中間期から「自己株式及び法定準備金の取崩等に関する会計基準」(企業会計基準第1号)を適用しております。これによる当中間期の損益に与える影響は軽微であります。

なお、中間財務諸表等規則の改正により、当中間期における中間貸借対照表の資本の部については、改正後の中間財務諸表等規則により作成しております。

【注記事項】

	(当中間会計期間)	(前中間会計期間)	(前事業年度)
(1)有形固定資産の減価償却累計額	84,344 百万円	82,337 百万円	83,423 百万円

(2)偶発債務

当社の従業員の住宅資金融資借入153百万円に対して債務保証をしております。

(3)ゴルフ会員権等評価損

ゴルフ会員権等評価損37百万円のうち、35百万円は貸倒引当金繰入額であります。

## リ ー ス 取 引

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引

### 1. リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額および中間期末（期末）残高相当額

取得価額相当額	（当中間会計期間）	（前中間会計期間）	（前事業年度）
機械装置	4,839 百万円	4,958 百万円	4,839 百万円
工具器具備品	1,442 百万円	1,522 百万円	1,535 百万円
合 計	6,282 百万円	6,480 百万円	6,375 百万円

  

減価償却累計額相当額	（当中間会計期間）	（前中間会計期間）	（前事業年度）
機械装置	2,664 百万円	1,966 百万円	2,261 百万円
工具器具備品	854 百万円	705 百万円	806 百万円
合 計	3,518 百万円	2,671 百万円	3,067 百万円

  

期末残高相当額	（当中間会計期間）	（前中間会計期間）	（前事業年度）
機械装置	2,174 百万円	2,992 百万円	2,578 百万円
工具器具備品	588 百万円	816 百万円	728 百万円
合 計	2,763 百万円	3,808 百万円	3,307 百万円

### 2. 未経過リース料中間期末（期末）残高相当額

	（当中間会計期間）	（前中間会計期間）	（前事業年度）
1年以内	1,086 百万円	1,176 百万円	1,145 百万円
1年超	1,677 百万円	2,632 百万円	2,162 百万円
合 計	2,763 百万円	3,808 百万円	3,307 百万円

### 3. 支払リース料および減価償却費相当額

	（当中間会計期間）	（前中間会計期間）	（前事業年度）
支払リース料	596 百万円	607 百万円	1,214 百万円
減価償却費相当額	596 百万円	607 百万円	1,214 百万円

4. 減価償却費相当額の算定方法は、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

5. 上記注記は、有形固定資産の期末残高等に占めるその割合が低いため、支払利子込み法によっております。

## 有 価 証 券

### 1. 関連会社株式で時価のあるもの

	（当中間会計期間）	（前中間会計期間）	（前事業年度）
貸借対照表計上額	3,035 百万円	-	3,035 百万円
時 価	3,494 百万円	-	3,151 百万円
差 額	458 百万円	-	115 百万円

当中間会計期間ならびに前中間会計期間、および前事業年度のいずれにおいても子会社株式で時価のあるものはありません。

## 製品類別売上高の状況

(単位：百万円)

製 品 類	当中間会計期間 (H14.4.1～H14.9.30)		前中間会計期間 (H13.4.1～H13.9.30)		前事業年度 (H13.4.1～H14.3.31)	
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比
香 辛 食 品 類	34,001	41.3%	34,260	40.8%	64,392	39.2%
加 工 食 品 類	18,568	22.5%	19,119	22.7%	39,625	24.1%
調 理 済 食 品 類	12,064	14.6%	13,101	15.6%	24,921	15.2%
飲 料 ・ ス ナ ッ 類 他	17,771	21.6%	17,548	20.9%	35,445	21.5%
合 計	82,406	100.0%	84,030	100.0%	164,384	100.0%

### [製品類別の状況]

#### < 香辛食品類 > ルウカレー製品およびスパイス製品

ルウカレー製品は、夏場の猛暑により煮込み料理が敬遠される傾向にありましたが、「こくまるカレー」が順調に売上を伸ばしたことから、全体に底堅い動きを示しました。

スパイス製品では、主力の「特選ねりスパイス」や「コショウ」が苦戦を強いられましたが、「冷しゃぶドレッシング」が好調であったほか、お求めやすい価格で手軽にご利用いただける「丸瓶洋風スパイス」は、製品ラインナップの充実と相俟って、大幅な増収となりました。

#### < 加工食品類 > シチュー等ドライフーズ製品およびラーメン製品

シチュー製品は、“こく”と“まるやかさ”が特長の新製品「こくまるシチュー」がご支持をいただき、前年実績を大きく上回ることができました。

また、“おとうふ普段活用”をテーマとした製品展開の第二弾として、よりおいしく、手軽にご利用いただける豆腐メニュー「豆腐ハンバーグの素」を新発売いたしました。

袋麺製品では、地域限定商品「うまかっちゃん」が比較的健闘しましたものの、厳しい販売環境を反映し、全般に振るわず、苦戦を余儀なくされました。



< 調理済食品類 > レトルト製品

レトルトカレーは、「咖喱屋カレー」が引き続き好調な売上推移を見せましたものの、ファーストフードの低価格化など、他業種メニューとの競合が激化したことや、昨年来のBSE問題の影響が一部尾を引いていることなどから、前年実績を下回る結果となりました。

レトルトパスタソースでは、新製品「ぱすた屋」シリーズが本格的なおいしさとお求めやすい価格を評価いただき、順調な市場導入を図ることができました。

< 飲料・スナック類他 > ドリンク製品・スナック製品、その他

ドリンク製品は、「六甲のおいしい水」が低価格競争や夏場の天候不順の影響等を受け、軟調な動きに終始しました。

スナック製品では、「とんがりコーン」が前年並みの実績を確保しましたほか、「オー・ザック」が前期に遺伝子組み換え原料問題のマイナスの影響を受けた反動から増収となりました。

また、口内清涼エチケットタブレット「さわやか吐息」が新しいフレーバーの発売のほか、積極的なCM展開も奏効して、健康食品分野は順調に売上拡大を図ることができました。

オープン製品では、パンを使った新しい軽食メニューを提案した「パンでグラタン」に続き、「パンでプディング」の新発売が売上に寄与し、大幅な増収となりました。